

花粉カレンダー

<http://www.keihin.gr.jp/image/kml-pdf/allergen2015-03.pdf>

参考文献

- 1) アレルギー 56 (11) 1403-1407, 2007
- 2) アレルギーの臨床 9 (2) 139-145, 1989
- 3) 日耳鼻 105, 1181-1188, 2002
- 4) アレルギー・免疫 13 (4), 548-554, 2006

2 働き盛りの結核が見逃されています

結核は50年前までは、年間死亡者数も10数万人に及び、死亡原因の第1位でした。医療や生活水準の向上により、薬を飲めば完治できる時代になりましたが、過去の病気ではありません。

日本では平成24年に新たに結核と診断され登録された患者さんは20,495人で、結核死亡数は2,084人でした。人口10万対の結核登録率は16.7で過去数年間減少傾向は続いています。欧米諸国と比較して未だ高い状況です。

近年の傾向としては結核患者の高齢化が進んでおり、新登録結核患者のうち60歳以上が占める割合は7割に達しています。平成24年結核登録者情報調査年報集計結果(概況)では、発病から受診するまでの期間が2か月以上の割合は、全体で19%でした。特に、働き盛りである30歳から59歳までの年代での受診の遅れ(症状発現から受診までの期間が2ヶ月以上の割合)の割合は33.7%と顕著に高く、働き盛りで感染性のある結核患者の約3人に1人は受診が遅れています。

働き盛りの方々は結核に感染しても風邪と勘違いすることで、医師に診察を受けるまでの時間が長くなる傾向があります。

結核症状は風邪とよく似た3つの特徴があります。

- ① 2週間以上続く咳と熱。
- ② 体重が減る、食欲がない、寝汗をかく。
- ③ だるさや息切れ、血の混じった痰が出る等です。

臨床症状として、咳・痰・発熱・胸背部痛・全身倦怠感などの症状は、臨床症状を見た限りでは、「風邪」と間違いやすい症状です。問診を行うことで過去の治療や基礎疾患から、結核を見逃さず、肺のレントゲンで確認を行い、異常陰影に気付いた場合は、結核を疑った対応が必要になります。2週間以上続く咳と熱といった、風邪様症状が出現した場合は注意が必要です。

結核の検査にはいくつかの種類がありますが、迅速に結果が得られる検査としては、塗抹検査と結核菌PCR検査があります。

塗抹検査では結核菌の同定までは出来ないことから、結核菌PCR検査を組み合わせることをお勧めします。また塗抹検査や培養検査が陽性で、結核菌PCR検査が陰性の場合、結核菌の次に多く検出される、非結核性抗酸菌のM.アビウムやM.イントラセルラーレが疑われますので、MAC PCR検査を実施することをお勧めします。詳しくは、下記URLをご参照下さい。

働き盛りの結核が見逃されています

<http://www.keihin.gr.jp/image/kml-pdf/kekaku2015-03.pdf>

平成24年結核登録者情報調査年報集計結果(概況)

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou03/12.html>

参考文献

TaqMan PCR法を用いた M. tuberculosis, M. avium および M. intracellulare 検出試薬の基礎評価 医学と薬学, Vol. 62 No. 1 121-127, 2009.

3 骨粗鬆症における骨代謝マーカー（特にP1NP）について

●骨粗鬆症について
国内に骨粗鬆症患者は1280万人いると言われていて、そのうち980万人は女性であり、圧倒的に女性に多い疾患です。理由として、最大骨量が男性に比べて低く、閉経によりホルモンバランスが変わり、早く骨量が減少することとされています。骨粗鬆症とは全身の骨折リスクが高くなった状態を指し、WHOは「骨粗鬆症は低骨量と骨組織の微細構造の異常を特徴とし、骨の脆弱性が増大し、骨折の危険性が増大する疾患である」と定義しています。一般に骨密度は骨強度の約70%を説明するとされ、骨粗鬆症患者の骨は密度が低くなっています。ただし骨密度のほかにも骨折リスク因子はいくつかあり、残りの約30%にあたる部分は「骨質」と呼ばれます。P1NPをはじめとする骨代謝マーカーは、この骨質にあたる「骨代謝回転状態」を見るために測定されます。つまり骨密度と骨質の両方を見ることで、より正確に骨強度（骨折リスク）を評価できます。

●P1NPとは
P1NPはI型プロコラーゲン-N-プロペプチドの略称で、骨基質タンパク質の主要成分であるI型コラーゲンが前駆体のI型プロコラーゲンから精製される際にN末端側から切断される分子量約35,000のポリペプチドです。主に骨粗鬆症治療薬を用いて治療される場合、治療の効果や経過を観察するために測定されます。血中のP1NP濃度が高いことは、新しい骨の材料になるI型コラーゲンが産生されていることを意味します。従来は治療効果を判定するのに、治療開始から半年～1年程度の長期間かかり患者の治療に対するモチベーションの維持が困難でした。しかし、近年ではPTH製剤（一般名：テリパラチド）による治療が急激に増加し、その治療効果判定にP1NPによりモニタリングするケースが増えております。投与開始1カ月でも優位に上昇がみられ、より短いスパンで治療効果が確認できるとされています。また、骨吸収抑制剤による治療歴の有無に関わらずP1NP値が上昇することもモニタリングマーカーとして有用とされています。

測定項目	: total P1NP
検体量	: 血清 0.3mL
容器番号	: 1
保存方法	: 冷蔵
検査実施料	: 170 点
検査判断料	: 144 点（生化学的検査）
所要日数	: 2～4 日

【基準値】

男性	: 18.1～74.1 μg/L
女性閉経前	: 16.8～70.1 μg/L
女性閉経後	: 26.4～98.2 μg/L

4 KMLインフォメーション 1月～3月分のお知らせ

前回メールニュースを配信しました後から現在までに発行されました「KMLインフォメーション」についてお知らせ致します。

各インフォメーションにつきましては、医院様へ随時お届けしておりますが、ご確認などに活用して頂ければ幸いです。

2015年 1月26日 検体検査実施料算定留意事項改正のお知らせ
<http://www.kml-net.co.jp/pdf/2015-0126.pdf>

2015年 1月30日 新規受託項目のお知らせ
<http://www.kml-net.co.jp/pdf/2015-0130.pdf>

2015年 2月02日 検査受託中止のお知らせ
<http://www.kml-net.co.jp/pdf/2015-0209-1.pdf>

2015年 2月27日 検査受託中止のお知らせ
<http://www.kml-net.co.jp/pdf/2015-0227.pdf>

2015年 3月03日 検査内容変更のお知らせ
<http://www.kml-net.co.jp/pdf/2015-0303.pdf>

■ □ = = = = =



最後までお読み頂きまして有り難う御座いました。

編集／発行 <http://www.kml-net.co.jp/>
株式会社 京浜予防医学研究所
〒216-0001 神奈川県川崎市宮前区野川 1432-1

= = = = = □ ■